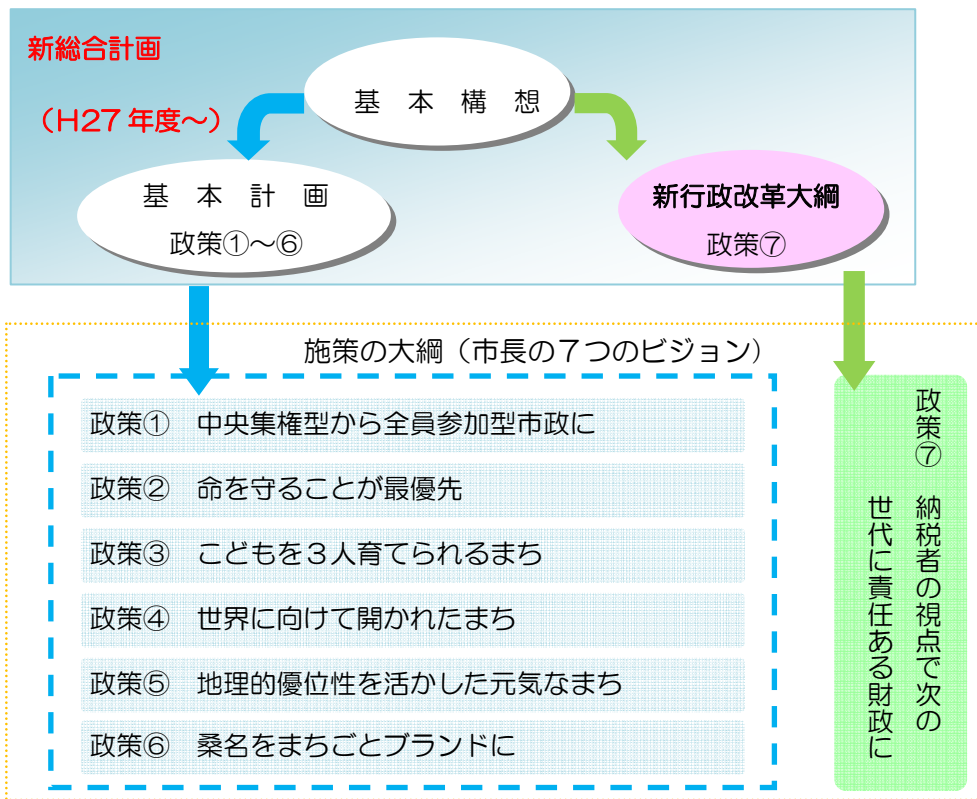


1. 新行政改革大綱の位置づけ

(1) 新総合計画と新行政改革大綱の関係



基本構想	まちづくりの方向性、施策の大綱（7つのビジョン）	H27～36年度（10年間）
基本計画	施策の大綱（7つのビジョン）を実現するための取組み	H27年度～概ね5年間
行革大綱	基本計画と同列、行財政改革推進	H27年度～概ね5年間

(2) 新総合計画の基本構想（まちづくりの方向性）

“本物”であふれる桑名市へ。

◎ 快適な「暮らし」を実現し続ける。

現在に至るまで、桑名市が重視し実施していた快適な住環境の整備・維持など「住み良さ」を目指していく。



その快適さを、次の世代にも誇れる市へ。

◎ 「まちの魅力」を発掘し、見つめ直し、磨き上げる。

桑名市の持つ「まちの魅力」の発掘・再発見や向上を今後の軸となる展開としてまちづくりを進めていく。



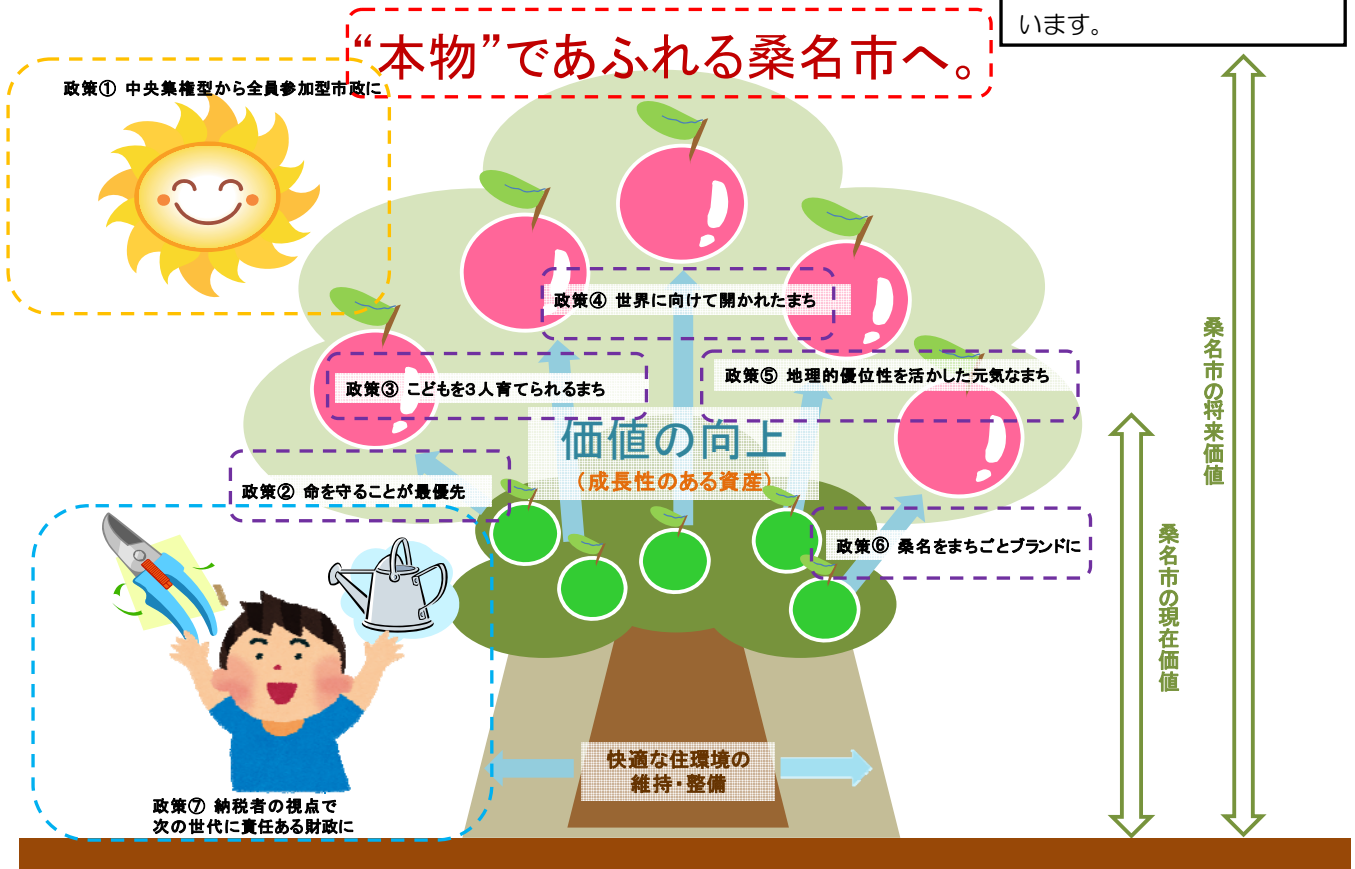
市民が桑名市の持つまちの価値に気づき、誇りに思い、その価値を向上することで自他ともに認められる市へ。

本物とは・・・

石取祭、多度祭、はまぐり、六華苑、ナガシマリゾート、くわな鋳物など、日本一、県内一、国や県指定の文化財、歴史などゆるぎない価値、事実、また自他ともに認められる価値があるもの。

(3) 基本構想（まちづくりの方向性）と新行政改革大綱の関連

現在、イメージ図は、作成中のため、案でお示しています。



まちづくりの方向性「“本物”であふれる桑名市へ。」

- ・ 現在まで育ててきた植物について、幹や枝葉（快適な暮らし）、そして果実（まちの魅力）の生長を共に促進させること

「政策① 中央集権型から全員参加型市政に」

- ・ 植物に太陽の光を当て、植物全体の生長を促進し、また、植物の生長を見守る。
⇒行政だけでなく、市民や民間など市政に関わる全員で課題を共有し、全員で解決していく。

「新行政改革大綱」

- ・ 植物の生長促進のため、伸びすぎた枝、不要な枝を切り、風通しを良くする、形を整える剪定と、肥料や水をバランスよく補給することで、植物全体で栄養を効率よく吸収させる。
⇒納税者の視点で税金の無駄遣いを見直し、市民サービスを維持するため、行政と民間の持つ経営資源（ヒト、モノ、カネ など）を効果的・効率的に活用する。

「政策② 命を守ることが最優先」～「政策⑥桑名をまちごとブランドに」

- ・ 植物全体（幹や枝葉、果実）の生長を促進する
⇒桑名市の持つまちの魅力の発掘・再発見や向上させる。